

開催報告

令和6年度「しがこども体験活動実践交流会」

～子どもたちのためにともに歩める仲間を探して～

子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体の企画運営担当者等を対象に、事例紹介や情報交換等を通して、青少年の体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進する機会とすることを目的として実践交流会を実施しました。



【日時】令和7年2月6日(木)13:30～16:30

【会場】滋賀県庁 新館7階 大会議室

【対象】「しがこども体験学校」登録団体 / 各市町行政関係者(教育委員会等における体験活動担当者)

公民館・コミュニティセンターの体験活動を企画運営する担当者 / まちづくり協議会関係者

社会福祉協議会、協力者団体関係者 等

【参加者】68名(来場44名、オンライン24名) ※オンライン併用

【内容】

13:00 受付

13:30 開会行事(開会あいさつ、日程説明)

13:40 事例紹介

①「地域での子どもの体験活動」の取組

湖南省下田学区防災キャンプについて

湖南省下田青少年育成学区民会議 会長 喜多 一郎 氏

②「しがこども体験学校」登録団体の取組

夏休み自然体験学校開催における人材の確保について

日本ボーイスカウト滋賀連盟 県コミッショナー 田中 隆弘 氏

14:50 グループ別情報交換

15:50 発表

16:20 閉会行事



【事例紹介】

①「地域での子どもの体験活動」の取組

湖南省下田青少年学区民会議の「湖南省防災キャンプ」の取組について紹介いただきました。子どもたちを「お客様にしない」という理念を持ち、中学生ボランティアと共に企画会議や事前研修を経てプログラムを企画されました。学区民会議を中心に消防署、消防団、防災士、ボランティアの皆様など、地域住民の協力を得て、開催された地域の温かい活動を紹介していただきました。「中学生になったら、今度は企画する側として参加したい」という感想を持つ子もあり、地域の取組が受け継がれていくことが実感できました。



②「しがこども体験学校」登録団体の取組

ボーイスカウトは、野外(自然)での体験を通して仲間との協調性やリーダーシップを学び、「より良き社会人を育てる」運動を展開されています。1907年イギリスで発足し、現在は世界170か国に約4千万人が参加する世界的青少年教育運動に発展しました。滋賀連盟では県下22団、約900名が活動されています。

イベントを開催するまでの流れや、各団との連携、安全に対する配慮などのほか、ボーイスカウト活動の面白さを人々に伝えるための準備や工夫について詳しく紹介していただきました。

【グループ別情報交換会】

●～これから必要な人材と問題解決のヒント～

- ・就職等を機に、ボランティアの参加が途切れてしまうことが課題。
- ・AIに頼らず、自分で考えていく子どもを育てることが必要。
- ・ネット上で発信ができる人が必要。
- ・小学生・中学生が地域で活躍できる場づくりには、大人や高齢者の力が必要。次につながるような言葉かけも必要。
- ・地元のひとと、その土地が好きで移住してきた人が、協力してできることがある。
- ・スタッフの方々による、「また来てくれたんだ」「ありがとう」という声掛けが、次回以降の参加につながる。
- ・小学生の時、体験活動に参加した子どもが、中学生になるとボランティアとして帰ってきてくれる。小学生の時の経験が生きる。
- ・イベントを親子で参加できるものにしていくと、大人を巻き込み、大人との人脈を作っていくことができる。
- ・保護者の体験の機会を増やすことが、子どもの体験の機会を確保することにつながる。



●参加者のアンケートより

- ・「地域に関わりのある方にできるだけ多く関わってもらおう」という取り組み方がとても素敵だと思いました。
- ・湖南市下田学区防災キャンプ活動は素晴らしかったです。地域でのつながりが参加者の子どもさんだけではなく、ボランティアの中学生、活動を支える大人たちと自然な形で広がっていくのを感じました。
- ・防災キャンプについては、参加者を小学生対象としていましたが、中学生や地域団体が一団となった取組で理想的だと思いました。
- ・子どもたちに良い経験をさせるための仕掛けを準備するには、いかに多くの人を巻き込んでいけるか、という教育現場と同じ課題を抱えていることを知り、よい刺激になりました。
- ・ボーイスカウトの人材確保については、継続と継承の強い想いを感じることができました。
- ・地域や団体ごとにいろんな文化があると感じました。人材の育成はみんな努力されていることがわかりました。
- ・地域とのかかわりを大切にして、行事をすることが大切だと改めて気付きました。人材を確保し、育成していく方法について、いろいろな意見が出て、とても参考になりました。
- ・地域には子どもだけでなく高齢者もおられるので、その方たちの人材もうまく使い、地域力が上がっていけば良いと気付きました。関わる全ての人が幸せを感じ、活力のある地域にしていきたいです。